

北九州における時無大根の採取に関する研究

第2報 播種期別採種における種子の大小の割合、根部肥大並に抽苔状況

豊岡 治平・吉武 貞敏・藤野 徳生

福岡県立農業試験場

TOYOOKA, J & YOSHITAKE, S & T. FUZINO, T. Studies on the Seed-harvesting of

TOKINASI Radish (A Japanese Spring Variety) in North Kyushu Area :

II. Studies on Size of Seed, Root-development and Bolting in Harvesting of Seed at Various Sowing Periods.

I. 緒 言

第I報において、筆者等は、時無大根の採種栽培における播種期と抽苔、帯化率ならびに収量について報告した。本報告においては、播種期別に採種した種子の粒の大小の割合、根部肥大ならびに抽苔状況について報告することとした。

II. 実験材料並に試験方法

i) 供試品種

昭和23年京都府タキイ種苗より花不知時無大根を入手し、二年取返採種を行つたものおよびこれを篩にて、大、中、小粒に選別したものをを用い、標準区としては新にタキイ種苗より取寄せたものを前者と同様に供用した。

ii) 区制、1区2坪、播種期11月8日、栽植距離、4尺×1尺

1区 昭和25年11月2日播種、6月26日採種

2区 " 12月15日 "

3区 " 1月16日 "

4区 " 2月7日 "

5区 " 3月1日 "

6区 " 3月7日 "

標準区 京都タキイ種苗産

III. 成績並に考察

i) 播種期別採種における粒の大小の割合

成績第I表の如くである。すなわち、11月2日・12月中旬までは大粒の2.0耗以上の歩合が多く、充実度も最も高く、1月中旬以降は1.9~1.85耗の中粒歩合が多くなり、充実度は播種期の晩くなるにしたがい低くなつていく。萩屋氏は、若刈採種のもは小粒で充

実度が低く、老刈のものは大粒種子が多く充実度も高くなると報告しているが、本実験においても、早蒔のものは老刈採種に、晩蒔のものは若刈採種に当り、同様の結果を得たものと思される。

第I表 播種期別採種の粒の大小の割合

区		mm				1000 粒重
		2.0以上	1.85	1.625	1.5	
1	(11月2日)	62.1	29.0	4.9	3.9	5,300
2	(12月15日)	62.8	31.4	2.7	3.1	3,800
3	(1月16日)	17.5	59.5	12.3	10.7	2,900
4	(2月7日)	29.6	58.3	7.8	4.3	2,800
5	(3月1日)	20.8	49.6	14.8	14.3	2,450
6	(3月7日)	18.9	40.6	21.6	18.9	2,800
京都産	(——)	26.4	51.3	11.5	10.8	3,350

ii) 播種期別採種における根部肥大ならびに抽苔状況

第II表の如く、早蒔採種のもの程根部の肥大は早く晩蒔になる程晩くなり、1ヶ体重、その他においても早蒔採種区程高くなつていく。抽苔状況は早蒔採種区即ち大粒種子程抽苔率も高く早期に抽苔が見られた。なお標準区と1月中旬ないし2月初旬蒔採種区がほぼ同様の結果になつていくことは興味あることである。

第II表 播種期別採種の根部肥大並に抽苔状況

区	根径 (20/4)	根径 (4/5)	根長	全重	葉数	抽苔率	抽苔始
1	49.8	61.4	24.2	206	31.8	47.5	2.8/5
2	45.8	55.4	21.3	159	34.3	67.5	1.9/5
3	42.3	54.6	20.4	152	31.4	33.8	3.5/5
4	41.2	52.7	19.8	150	32.6	32.6	3.1/5
5	41.0	50.1	18.3	147	31.6	29.1	3.5/5
6	36.1	50.0	18.1	142	31.1	33.5	5.1/5
京都産	43.6	54.0	20.3	155	32.1	33.5	3.7/5

iii) 播種期、粒の大小別の根部肥大並に抽苔状況

播種期別の採種のもを粒の大小別に4階級に篩別

して、前者と同様の調査を行った。成績は第 III 表の如くである。萩屋氏は大粒種子の根部肥大ならびに抽苔について「大粒は小粒より根部肥大速かで抽苔も早く高率を示すと発表されているが本実験においても、粒の大きい程、根部肥大、葉数増加も速く増大する。抽苔率も大粒のもの程早く高率を示している。

第 III 表 粒の大小別の根部肥大並に抽苔状況 (6区 平均)

粒の大小 mm	根径 (20/4)	根径 (4/5)	根長	全重	葉数	抽苔率	抽苔始
2.0 以上	47.9	58.8	23.2	196	36.0	60.0	2.2/5
2.0~1.85	41.8	54.7	20.3	142	32.9	35.0	3.0/5
1.85~1.625	40.3	51.1	19.7	148	31.4	32.6	4.3/5
1.625~1.5	39.7	52.5	18.5	129	30.5	19.7	3.6/5

[註] 抽苔率並に抽苔期は5月5日までの調査である。

IV. 摘 要

1. 時無大根を京都府の本場より入手し、2年取返し採種を行ったものにつき、播種期別に採種を行い、粒の大小の割合を調査した。播種期の早いもの程大粒種子歩合が高く、晩蒔区程中粒以下の歩合が多くなり、充実度、収量も早蒔区程高率を示した。
2. 播種期別、粒の大小別に11月8日同時に播種を行い、根部肥大、抽苔状況等生態調査を行ったが、
 - i) 根部肥大状況は早蒔区程速かで晩蒔区程遅くなり、葉数その他の増大も同様であつた。
 - ii) 抽苔状況についても早蒔採種区の大粒種子が早く抽苔がみられ高率を示したが3区乃至6区、標減区ほぼ同様の結果であつた。
3. 総括的にみて、2年取返採種、種子であつたためか3区以下のものにおいては、著るしい差異は認められなかつたが、実際採種の場合では、種々の問題が残されている。